

NPO 法人ハートセービングプロジェクト

令和4年度年次レポート

第 1 5 期 年次総会資料

議事

- 議題 1 令和 4 年度事業報告
- 議題 2 令和 4 年度活動計算書報告
- 議題 3 令和 5 年度事業計画
- 議題 4 令和 5 年度活動予算
- 議題 5 任期満了に伴う役員人事の件

令和 5 年 4 月 23 日（日曜日） 午前 11 時から 12 時

会場 NPO法人ハートセービングプロジェクト本社

住所 東京都世田谷区下馬1-29-5-102

（オンラインアプリケーション「Zoom」を利用したビデオ総会となります）



はじめに

理事長
富田 英

昨日からイスタンブールで開かれているPICS Istanbul2023(注:小児・成人先天性心疾患のカテーテルインターベンションの国際学会)に、今朝から参加しています。飛んでイスタンブールと思っていたのですが、羽田から深夜の直行便で13時間半、久々にけっこうなJet lagの中で書いているので、少々支離滅裂になるかもしれません。当然のごとくマスクをして飛行機にのり、機内ではけっこうマスクも目立ったのですが、空港ではアジア人らしき人がごくわずかマスクをしているだけ、学会場にいたってはマスクをしていると気が引ける感じです。マスク着用は個人の判断となった日本では、まだまだマスク派が大勢なのは好対照でした。

世界には少々遅れましたが日本もpostコロナ、withコロナに舵を切る中、資料にあるように短期でしたが久々に母子センターのカテ室に行ってきました(モンゴルに行ったというより、母子センターのカテ室に行ってきたと言ったほうがピッタリ来ます)。情報はいただいていたのですが、人事異動がありずいぶんスタッフが若返りました。残念ながら十分な技術継承が行われる前の異動になり、技術的にはやや後退した感が否めません。ずいぶん技術移転が進んだと意識できていた矢先の後退で、少々、寂しい気持ちにもありますが、一方で、カテーテル治療がモンゴルの小児循環器医療に欠くべからざる位置を占めるようになっていくという事実は、やはりハートセービングプロジェクトが積み重ねたソフトとハード双方への貢献の結果だろうと、気を取り直してもおります。

世代交代は何時でも何処でもあることなのでハートセービングプロジェクトも息の長い活動にしてゆくための次世代育成が課題です。今年はモンゴル人医師の教育効率を高める、ハートセービングプロジェクトの次世代育成、両方の意味で、リーダー、二番手、若手で構成されるコンパクトなチームを隔月くらいで短期派遣し、事前・事後のミーティングを十分に行い、多少時間がかかっても知識と技術の移転に主眼をおいた活動を展開したいと考えております。

みなさまの益々のご支援をお願いします。

令和5年3月15日

令和4年度事業報告資料

－令和4年度実施の各事業の内容と成果－

1. 渡航治療支援事業

ハートセービングプロジェクト主催の学会の開催

現地の医療関係者と日本国内のハートセービングプロジェクトの活動参加者との共同活動として、本年は年2回の日本モンゴル小児循環器学会をオンラインで開催しました。これはNPO法人ハートセービングプロジェクトの主催によるもので、本年は第4回、第5回を実施、各回ごとに特別講演が行われました（第5回以降は日本・モンゴル双方からの特別講演実施となりました）。講演者のみなさまには周到な準備をさせていただき心より御礼申し上げます。また、会員の皆様もご多忙のなかご視聴いただき、ありがとうございました。令和5年もオンラインによる学会の開催は継続してまいりたいと存じます。今後も、みなさまふるってご参加いただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

開催日時 参加人数	テーマ	おもな内容(敬称略)
第4回 2022年5月26日(木) 19時半～21時 40名	ファロー四徴症	●特別講演「ファロー四徴症の解剖学と心臓手術」 河田政明（自治医医科大学さいたま医療センター・循環器内科） ●特別講演「ファロー四徴症の麻酔の上の注意点」 藤井園子（愛媛大学医学部麻酔周産期学教室助教）
第5回 2022年9月22日(木) 19時半～21時 31名	症例検討	●特別講演「右上大静脈の接続異常によりチアノーゼ状態にある子どもの経カテーテル治療の症例紹介」 片岡功一（広島市民病院） ●特別講演「血管撮影における小児麻酔の現状」 アリウントンガラク、ガンチメグ、ドルゴルスレン（NCMCH）

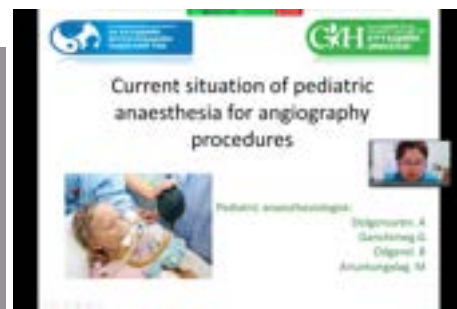
第4回学会の参加者



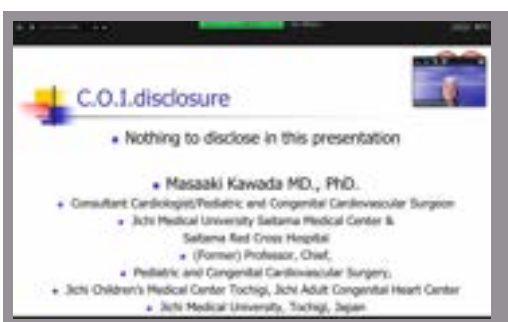
講演中の藤井園子先生



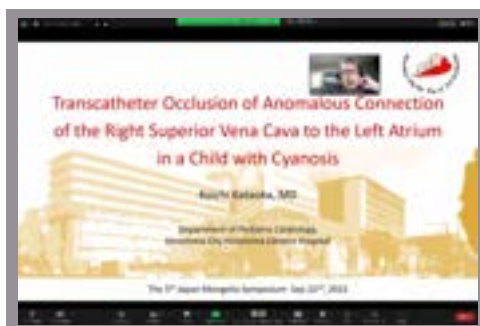
講演中のアリウントンガラク先生



講演中の河田政明先生



講演中の片岡功一先生



第5回オンライン学会告知資料



令和5年度のモンゴル渡航治療事業 再開に向けてパイロット渡航

2019年12月以来3年ぶりに、2023年2月10日出発の2泊3日の日程でモンゴル渡航治療事業を実施しました。今回は令和5年度の本格的活動再開に向けてのパイロット渡航でしたが、活動再開に向けての条件確認と同時に、活動先であるモンゴル国立母子保健センターから事前に届いていた患者リストに基づいて10例の心カテーテル治療を実施しました。

渡航メンバーは富田英理事長、喜瀬広亮医師、山岡大志郎医師の計3名で、10日成田発ウランバートル着、到着後母子センターにて53人の検診、翌11日に9例の心カテーテル治療（動脈管開存7、肺動脈弁狭窄2）と1例の検査カテーテル 合計10例の心カテーテルを実施し、翌日の12日に無事帰国しました（事務局のアルタントーヤは残務整理のため居残り17日に帰国）。



モンゴル国立母子保健センターの診察室で心エコー検診を行う山岡大志郎医師（中央）



心エコー検診中の喜瀬広亮医師（中央）と事務局のアルタントーヤ（右）



カテーテル治療中。左から母子センターバトスーリー医師、ポロルマー医師、富田英理事長、喜瀬広亮医師



活動協力契約に調印を行った富田英理事長（左）とモンゴル国立母子保健センターのSh.アルタントーヤ総長（右）



モンゴル国立母子保健センターの医師

滞在中の2月11日にはハートセービングプロジェクトとモンゴル国立母子保健センターの間で活動協力契約を再締結しました。その際、モンゴル国立母子保健センターでは、小児循環器科と心臓血管外科でコロナ期間中に大きく人事異動があり、「ハートセービングプロジェクトの協力の下に小児循環器医師と外科

医師の教育を改めて再開したいと考えております、そのためハートセービングプロジェクトには今後一層教育に重点をおいた活動をお願いしたい」との申し入れがありました。

モンゴル国立母子保健センターの現状報告と今後の希望

1.現状報告

小児循環器科は一昨年にバヤルマ医師が退職し、現在バトウンドラハ医師、ホンゴル医師（この2名がカテーテル担当）、1年目のバトスーリー医師、同じく1年目のアヌージン医師の体制です（9月からもうひとりレジデントが加わる予定）。心臓血管外科のアマガラン医師は茨城県立こども病院で研修歴があり日本語堪能です。年内に開心術開始の計画で、そのため人工心肺なども用意されています。

2.今後の希望

- ・人事異動前はモンゴル人医師主導で治療できることが多くなっていましたが、モンゴル人医師が主術者としてカテーテル治療をするのが困難になったため、1～2年のうちに若手医師を指導して、モンゴル人医師が主術者としてカテーテル治療をできる状態にしたいとの希望があります。
- ・開心術開始にあたって日本から外科医とperfusionistに渡航・指導してもらうことを希望しています。

2.教育事業

ナランツァツラル医師が第24回日本成人先天性心疾患学会で発表しました

(1) 愛媛での教育プログラム

2023年1月10日來日、17日帰国の1週間の日程でモンゴル国立母子保健センターのナランツァツラル医師が來日し、愛媛県で行われた「第24回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会」に出席しました。ナランツァツラル医師は來日前から発表テーマについて当法人の理事から指導を受け、13日(金)に一般演題「モンゴルにおける先天性心疾患児のフォローアップ」を発表を行いました。また東京では母子センターの現状について事務局とミーティングを実施しました。



会場にて(左から)檜垣高史副理事長、ナランツァツラル医師、富田英理理事長

日程表 1月13日(金)

時	第1会場	第2会場	ポスター会場	ハコ
式				
セッション	一般演題1 「アトピー」 演題：大内清隆(自治医大) 演者：田本一孝(北川博成・徳川直也・高橋浩樹) 田中三郎(本川第一)	一般演題2 「橋本透爾症」 演題：上村清隆(聖路閣) 演者：河野浩一(小宮正広・高津博樹) 金子野也(京都府立)	ポスター 受付・観覧付付	
小児科に お母さん の心をつなぐ				
成人先天性心疾患	一般演題3 「アトピー2」 演題：田本一孝(北川博成) 演者：田本一孝(北川博成) 田中三郎(本川第一) 上野博史(上野博成) 高橋浩樹(高橋浩樹)	一般演題4 「ACHDの課題」 演題：田本一孝(北川博成) 演者：田本一孝(北川博成) 田中三郎(本川第一) 上野博史(上野博成) 高橋浩樹(高橋浩樹)		
トピックス				
お話し			ポスター観覧	

ボロルマー医師が第33回日本先天性心疾患インターベンション学会で発表しました

(2) 東京での教育プログラム

2023年1月18日來日、22日帰国の4泊5日の日程でモンゴル国立母子保健センターのボロルマー医師が來日し、東京の千代田区一ツ橋で行われた「第33回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会」に出席しました。ボロルマー医師は20日(金)に「モンゴルでの先天性心疾患に対するカテーテル治療の合併症」というテーマで発表を行いました。その他の時間で多くの演題を聴講したり会員の方々と意見交換を行い、大いに刺激を受けましたとのメッセージがありました。



学会会場にて(後列左から)伊吹圭二郎医師、片岡功一理事、田村真通理事、(前列左から)B.アルタントーヤ、中川直美医師、富田理事長、ボロルマー医師、杉山央医師、檜垣高史医師



ボロルマー医師が発表した「モンゴルでの先天性心疾患に対するカテーテル治療の合併症」のプレゼンテーション資料の表紙

ナランツァツラル医師・ボロルマー医師共に帰国後、母子センターにて報告勉強会を実施しました

両医師共に帰国から1週間後に母子センター内の会議室にて学会の報告と、その中身を共有する勉強会を開いたそうです。参加者からは活発な質問があったそうで、大変勉強になり、ありがとうございましたとの連絡がありました。

3.広報事業

ウェブサイト URLが新しくなりました <https://heartsavingproject.com/>

昨年9月に発生しましたインターネットトラブルが原因で、2022年11月、ハートセービングプロジェクトのウェブサイトのURLを新規に取得しました。これまでドメインはモンゴルで管理しておりましたが、これを機に日本で管理することにいたしました。ウェブサイトの引っ越し作業はこれまでホームページを管理して下さっていた横内信弘様に、この度も無償で請け負っていただきました。御礼申し上げます。ありがとうございました。新しいURLは<https://heartsavingproject.com/> です。

youtubeに動画をアップしました

一昨年に活動開始20周年を迎えた際にモンゴルの患者さんからいただいたビデオメッセージを許可をいただき一般公開用に再編集をし、2022年6月にYouTubeにアップしました。これに伴い、YouTubeには「ハートセービングプロジェクト公式」のページも併せて開設しました。ぜひ皆様も今一度ご視聴いただけますと幸いです。

第33回日本先天性心疾患インターベンション学会に出展

「教育事業」で触れました第33回日本先天性心疾患インターベンション学会において、その展示コーナーで「NPO法人ハートセービングプロジェクト」の活動紹介のブースを設置させていただきました。会期中は事務局メンバーとボランティア要員が常駐いたしました。



(上) 展示コーナーのブースの様子



(上) YouTubeで「ハートセービングプロジェクト」と検索するとこのように表示されます

4.救急車輸送事業

地方自治体から中古救急車をモンゴルの各病院へ寄贈するこちらのプロジェクトは横綱日馬富士関が発起人で、ハートセービングプロジェクトとの共同プロジェクトとして2012年から始まり、令和4年で10年目となります。令和4年は広島市から寄贈された救急車2台が11月にウランバートルに到着し、ドルノド県立中央病院附属保健所、ウヴルハンガイ県グチン・ウス村保健センターの2カ所に受け渡されました。令和5年は、大阪市の救急車1台と日本外交協会所有の輸送用バン1台、広島市から新たに救急車2台の合計4台の輸送の準備を進めており、来る令和5年には輸送が完了する予定です。寄贈先はそれぞれトウブ県バヤンハンガイ郡保健所、フブスグル県シネイデル村医療センター、ウランバートル市ハンウール区医療センターです。これにかかる費用は、日馬富士関から紹介いただいた大阪の企業(令和5年に精算予定)が負担することとなっています。新型コロナとウクライナ危機により海上輸送費が高止まりしている関係で、当初の見積額の倍近く高騰し苦心いたしました。無事に見通しが立ちました。



(上) 2022年11月22日ウランバートルに到着の広島市の救急車



(上) 2023年広島市から寄贈予定の救急車

5.ニュース&トピックス

田村真通理事がモンゴル国政府より北極星勲章を授与されました

2022年10月、ハートセービングプロジェクトで長年医療ボランティア活動に従事された田村真通理事と山本英一医師が2022年度モンゴル国政府よりそれぞれ「北極星勲章」と「ナイラムダル友好勲章」を授与の発表がありました。さらに2022年がモンゴルと日本の外交樹立50周年にあたることから、今回受勲した30団体(個人を含む)から、この50年間で特に貢献の際立った7団体(及び個人)が選ばれ、11月29日、訪日中のモンゴル国大統領オフナー・フレルスフ閣下から直接勲章を受け取ることとなりました。この7団体の中にハートセービングプロジェクトの田村真通理事が選ばれ、この日直接勲章を受け取りました。当団体ではモンゴルでの医療活動を通じた人道的支援に対して、これまで4名が北極星勲章を受勲しており、田村理事で5人目となります。



オフナー・フレルスフ大統領(左)と田村真通理事(右)

富田英理事長がモンゴル国立母子保健センターの名誉教授に就任しました



2023年2月10日、モンゴル国立母子保健センターにて富田英理事長

「渡航治療事業」の活動紹介で述べましたように、2023年2月10日から12日の2泊3日のスケジュールでモンゴル国立母子保健センターを訪問しました際、同センターから名誉教授の称号の授与されました。同病院より名誉教授の称号を授与されるのは当団体においては羽根田紀幸永世理事長に続いて2人めの栄誉となります。

モンゴル民族舞踊コンサートよりご寄付

2023年1月20日金曜日に東京・日暮里で開催された「ゴビの華 モンゴル舞踊コンサート」主催者様より当法人に売上金からご寄付をいただきました。主演のブルマー氏、主催のランド・スケープ・アーチ様には、この場を借りて感謝いたします。ありがとうございました。



令和4年度もご寄付をありがとうございました

令和4年度にご寄附をいただきました皆様は以下の通りです(アイウエオ順)。この度もありがとうございました。令和5年はモンゴルでの活動を再開いたします。

磯村 節子様 / 医療法人伊藤医院 様 / 伊吹 圭二郎様 / 今田 博巳様 / 今村 清也様 /
江角 法明様 / 医療法人北陽クリニック様 / 岡見 節子様 / 岡 洋一郎様 / 片岡 功一様 /
片山 望様 / 医療法人社団 賀屋医院様 / からすやま小児科様 / 河田 政明様 /
岸田 憲二様 / 喜瀬 広亮様 / 木村 正人様 / 医療法人くみ小児科様 / 郷原 博様 /
小林 百合雄様 / 介護老人保健施設さざんか様 / 杉岡 みどり様 / 巢立 秀貴様 /
瀬島 齊様 / 瀬戸 嗣郎様 / 曾田 一郎様 / 高橋 良昌様 / 竹谷 健様 / 多田 尚克様 /
田中 慎一郎様 / 富田 英様 / 豊多摩通運(株)様 / 長岡 三郎様 / 中島 宏昭様 /
中村 章様 / 西川 望様 / 西島 大美様 / 西村 新吉様 / 橋本 委久子様 / 羽根田 紀幸様 /
幅田 博樹様 / 日馬富士公平様 / 福代 明正様 / 藤井 園子様 / 藤原 紀男様 /
医療法人 古瀬医院様 / 松井 修一様 / 松本 孝文様 / 宮脇 玲子様 / 森田 紘基様 /
森山 整様 / 矢内 俊様 / 山下 賢治様 / 山田 修様 / 有限会社ランドスケープ・アーチ
/ 和田 典子様 / 渡部 一郎様

議案 2 令和 4 年度活動計算書報告資料

令和3年度の会計財産目録と令和4年度の会計財産目録

科目	令和3年度	令和4年度
現金	55,318円	365,635円
貯蔵品（切手）	2,011円	681円
普通預金三菱UFJ銀行	9,514,196円	8,166,612円
普通預金 ゆうちょ銀行	2,537,751円	2,519,632円
普通預金 三井住友銀行	1,603,369円	1,603,388円
りそな銀行	0円	5,562円
郵便振替口座	4,644,914円	5,369,314円
未収金	0円	107,017円
合計	18,357,559円	18,137,841円

正味財産の増減および当期経常増減額はマイナス219,718円でした。

		令和4年度事業計画金額	令和4年度事業報告金額	
収入の部	会費収入	300,000円	260,000円	
	寄付金収入	3,500,000円	2,541,518円	
	助成金等	0円	0円	
	受取利息	—	132円	
	雑収入（未収金含む）	—	107,387円	
	小計	3,800,000円	2,909,037円	
	モンゴルでの物的サービスの受入	100,000円	21,544円	
	日本での物的サービスの受入	150,000円	167,100円	
	物的サービスの受入合計	250,000円	188,644円	
収入合計		4,050,000円	3,097,681円	
支出の部	事業費	現地で治療支援する活動	1,410,000円	263,947円
		日本で支援する活動	1,540,000円	486,140円
		教育事業	730,000円	469,028円
		来日治療支援事業	—	—
		救急車輸送事業	1,200,000円	1,074,440円
		日本で広報する活動	400,000円	639,173円
		事業費合計	5,280,000円	2,932,728円
管理費合計		700,000円	384,671円	
支出合計		5,980,000円	3,317,399円	

令和4年度 事業別経費

令和4年3月1日から令和5年2月28日まで(施設等受入評価額含む)

事業	内容	日時	実施場所	従事者	受益者	支出額
国内支援事業	教育プログラムの実施 (日本での学会参加を軸とした研修とオンライン学会)	2022.3.10～ 2023.2.28	東京・島根・広島 ・秋田・愛媛など (ウランバートル)	60人	200人	469,028円
	日本からの中古救急車を モンゴルの病院へ寄贈する 事業実施にかかる業務	2022.3.1～ 2023.2.25	東京・富山 ・広島・大阪	65人	600人	1,074,440円
	モンゴルでの治療を 支援する事業にかかる業務	2022.3.1～ 2023.2.28	東京・島根・広島 ・秋田・愛媛など	40人	200人	486,140円
国外支援事業	日本からの中古救急車を モンゴルの病院へ寄贈する 事業実施にかかる業務	2022.3.1～ 2023.2.28	ウランバートル	80人	600人	—
	モンゴルでの治療を 支援する事業にかかる業務	2022.3.1～ 2023.2.28	ウランバートル			263,947円
国内広報	広報向けの資料制作業務	2022.3.10～ 2023.2.28	東京	4人	50人	116,045円
	広報ツールの配布	2022.3.10～ 2023.2.25	東京	4人	300人	282,824円
	広報向けWEBサイト管理業務	2022.3.10～ 2023.2.25	東京・モンゴル	8人	300人	240,304円

現地	事業費総額	263,947円
国内	渡航治療事業 事業費総額	486,140円
国内	広報事業 事業費総額	639,173円
国内	救急車寄贈事業 事業費総額	1,074,440円
国内	教育事業 事業費総額	469,028円
	管理費総額	384,671円
	合計	3,317,399円

令和4年度 収入の内訳

会費	260,000円
寄付金	2,541,518円
受取助成金	0円
施設等評価益	188,644円
受取利息・雑益	107,519円
合計	3,097,681円

令和4年度 施設等受入評価益

施設等受入評価益とは、「無償又は著しく安い価格での施設の提供等物的サービス」のことです。以下の記載分はそのうち「客観的裏付けのある金額計算」されたものです。

なお、施設等受入評価益記載の寄付につきましては、原則、所得税・法人税控除の対象とはなりません。

下記に記載以外にも2023年2月の視察の際は、モンゴリアのボランティアスタッフが自家用車を運転して移動の手伝いもしてくれたことをここに記しておきます。

提供者名	換算金額	内容
八代高砂浦五郎 様	55,000円	大相撲カレンダー50本
八代高砂浦五郎 様	33,000円	相撲番付600枚
八代高砂浦五郎 様	51,600円	高砂新聞600枚
千代翔馬 富士雄 様	27,500円	相撲番付500枚
日本国内 物的サービスの受入合計	167,100円	
バヤンゴルホテル 様	21,544円	定価の20%OFFの割引額
モンゴル 物的サービスの受入合計	21,544円	
合計	188,644円	

令和4年度 使途等が制約された寄付金等の内訳

「使途等が制約された寄付金」とは、使い道について指定を受けた寄付金のことを指します。

期初残高は¥1,903,350円（内訳：外山産業様 救急車輸送向け300,000円、エドワーズライフサイエンス社様 モンゴル地方健診向け1,603,350円）、うち300,000円は今期に目的限定寄付金として入金された780,000円と合わせて救急車輸送の荷造り運賃として出金しましたので、残高は¥1,603,350円です。

令和5年はモンゴル渡航治療活動を再開、地方健診も実施予定です。

期初の残高	1,903,350円	外山産業様、エドワーズライフサイエンス社様
今期のご寄付者名	金額	内容
フブスグル県シネイデル村有志一同	600,000円	モンゴルへの救急車輸送費用目的
日馬富士公平 様	180,000円	モンゴルへの救急車輸送費用目的
今期のご寄付金額合計	780,000円	
今期の使用額	1,080,000円	
来期への繰越額	1,603,350円	
繰越のご寄付者名	1,603,350円	
エドワーズライフサイエンス社 様	1,603,350円	モンゴル地方検診費用目的

令和5年度事業計画

冒頭の富田英理事長のごあいさつにありましたように、新型コロナウイルスの影響でハートセービングプロジェクトが渡航休止をしていたこの3年余りのあいだに、モンゴルでの活動拠点であるモンゴル国立母子保健センターの小児循環器科と血管心臓外科では、大幅に人事が一新されたため、「今年はモンゴル人医師の教育効率を高める、ハートセービングプロジェクトの次世代育成、両方の意味で、リーダー、二番手、若手で構成されるコンパクトなチームを隔月くらいで短期派遣し、事前・事後のミーティングを十分に行い、多少時間がかかっても知識と技術の移転に主眼をおいた活動」を行ってまいります。

令和5年度のモンゴル渡航治療活動スケジュールは、5月3日（水）～7日（日）の治療・地方健診混成のBig Teamと、8月10日（木）～14日（月）、9月15日（金）～18日（月）、11月23日（木）～26日（日）の渡航医師3～4名編成の治療チーム、9月15日（金）～18日（月）の地方健診1チームになります。地方健診先は候補が上がっている何か所からスケジュール調整中です。モンゴル滞在時は現地スタッフ教育を目的として活動して参ります。

今後の5ヶ年計画と2023年の教育目標を令和5年の活動開始前までに大枠設定をし、日本・モンゴルの活動メンバー内で目標を共有します。

またコロナ下で開始したオンライン学会は今後も継続していきます。間隔としては3～4ヶ月に1度、テーマはモンゴル側の希望に沿うものとします。またモンゴル側らの要望に応じて個別の症例についてのカンファレンスは必要に応じて随時開催します。第5回は2023年4月25日（火）19時開始予定です。

救急車輸送事業については、令和5年度内に大阪市から1台、広島県から2台が寄贈されます。贈呈先はそれぞれトウブ県バヤンハンガイ保健所、ウランバートル市ハンウール区医療センターとフヴスグル県シネイデル村医療センターの予定です。

2023年度 ハートセービングプロジェクト おもな予定表

4月23日	ハートセービングプロジェクト 社員総会（リアルとオンラインのハイブリッド）
4月25日	日本国内・モンゴルをオンラインで繋いで「第6回オンライン学会」を開催（こののち3～4ヶ月に一度の割合で開催予定）
5月3～7日	モンゴル渡航治療活動（検診・カテ合同チーム）
8月10～14日	モンゴル渡航治療活動（カテチーム）
9月15～18日	モンゴル渡航治療活動（検診・カテ合同チーム）
11月23～26日	モンゴル渡航治療活動（カテチーム）
2024年2月	期末決算

令和5年度活動予算

令和4年度 繰越額		18,137,841円
令和5年度 会費収入見込額		30万円
令和5年度 寄附金見込額 (国内)		550万円
令和5年度 物的サービス等受入見込額 (国内)		17万円
令和5年度 物的サービス等受入見込額 (現地)		8万円
令和5年度 収入見込額合計		605万円
国内支援事業	(1) モンゴル地方検診・カテーテル班 エアチケットを含む交通費 渡航人員のべ25人	308万円
	(2) 国際通信	8万円
	(3) 消耗品・事務用品ほか	2万円
現地支援事業 (モンゴル)	(1) 現地での物的サービス (バヤンゴルホテル宿泊として)	8万円
	(2) 地方検診 宿泊・交通費	52万円
	(3) モンゴル国立母子保健センターでの治療活動で 使用するデバイスにかかる費用	8万円
	(4) 現地ボランティア日当	15万円
	(5) 医師免許取得等事務手数料および関税	5万円
	(6) 車両関係費 (ガソリン代・レンタカー費用)	17万円
	(7) 出張旅費 (食費・水等)	66万円
	(8) その他 (通信費ほか)	13万円
教育事業	(1) 国際通信	4万円
	(2) 消耗品・事務用品ほか	1万円
広報事業	ホームページ管理費・印刷物の作成・郵送料など	33万円
救急車輸送事業	救急車の輸送費	120万円
管理費	令和4年同様の内容として	60万円
令和5年度 支出見込額合計		720万円
次期繰越予定額		16,987,841円

事務局からみなさまへ
住所とメールアドレス変更はお知らせください

事務局から活動に関するご案内を差し上げますので
ご住所とメールアドレス変更の際はご一報ください

メールアドレス npo@heartsavingproject.com